

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	言語聴覚分野
学籍番号	14S3028	院生氏名	坂本 圭
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	聴覚障害者における早口音声聴取能と関連要因の検討 －補聴器装用者と人工内耳装用者の比較－		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>医療・工学機器の進歩に伴い、聴覚障害への聴覚補償が補聴器や人工内耳等によって可能となってきているが、これらの機器については早口音声の聴取や雑音下の聴取など多くの課題が残されている。このうち早口音声聴取については、人工的に合成された音声を使用した研究は存在するが、自然な音声を取り上げた研究は極めて少ない。</p> <p>本研究は、人工的でない自然な早口音声を使用し、人工内耳と補聴器を装用する聴覚障害者の早口音声聴取能およびその関連要因を検討している。対象は人工内耳装用者と補聴器装用者が 30 名、対照群として健聴者が 9 名であった。方法は、自然な音声で発話速度が異なる文を作成し聴取能を調べている。研究は3部からなり、研究Ⅰでは人工内耳装用者と補聴器装用者の聴取能の差異および時間分解能、語音明瞭度、年齢との関連性を検討し、研究Ⅱでは文の意味性(無意味文/有意味文)の影響、研究Ⅲでは文中の休止区間の位置が早口音声の聴取にどのように関与するかを調べている。</p> <p>結果は、人工内耳装用者と補聴器装用者は早口音声聴取能が低下し、両群の聴取能に時間分解能および文の意味性が関与することが明らかとなった。休止区間の位置については、人工内耳装用者においてのみ聴取能に関与し、意味単位で区切ることが有効なことが示された。</p> <p>本研究に倫理上および研究方法の問題は認めない。データ分析方法、論証、論文形式については、2回開催した審査会の指摘を受け、適切に修正された。</p> <p>本研究の新規性は、補聴器装用者と人工内耳装用における自然な音声の早口音声聴取能に文の意味性および休止区間の位置が関与することを明らかにした点にあり、このような研究はこれまでに存在しない。</p> <p>本研究の成果は、聴覚補償機器の改良・開発および聴覚障害者に対する有効なコミュニケーション支援法を検討するうえで有用であり、高く評価できる。</p> <p>以上から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(言語聴覚学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	藤田郁代	教授
	副 査	深浦順一	教授
	副 査	内山仁志	准教授